



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Primera OS 4.0: Remote Copy によるディザスタリカバリ

摘要

このガイドは、HPE Primera Remote Copy 構成でディザスタリカバリ機能を実行するシステムおよびストレージ管理者を対象としています。

部品番号: P23109-191
発行: 2019 年 9 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Intel[®]、インテル、Itanium[®]、Optane[®]、Pentium[®]、Xeon[®]、Intel Inside[®]、および Intel Inside ロゴは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft[®]および Windows[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Adobe[®]および Acrobat[®]は、米国 Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Java[®]および Oracle[®]は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

UNIX[®]は、The Open Group の登録商標です。

VMware[®]、VMware[®] vCenter[™]、および VMware vSphere[®]は、VMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。

改訂履歴

部品番号	発行日	版	変更の概要
P23109-191	2019 年 9 月	1	初回リリース

目次

Remote Copy 構成のディザスタリカバリ	4
Remote Copy グループの手動フェイルオーバー.....	4
Remote Copy グループのフェイルオーバーの切り戻し.....	4
Remote Copy グループのリカバリ.....	5
Remote Copy グループにおけるデータフローの通常の方法の復元.....	5
Peer Persistence のスイッチオーバーの実行.....	6
Peer Persistence フェイルオーバーのリカバリ.....	6
参照	8
Remote Copy フェイルオーバー操作.....	8
Remote Copy のフェイルオーバー切り戻し操作.....	8
Remote Copy の回復操作.....	8
Remote Copy の復元操作.....	8
Remote Copy グループポリシー.....	9
Peer Persistence を使用した 1-to-1 Remote Copy における無停止フェイルオーバー (Geocluster 環境)	10
VMware vSphere Metro Storage Cluster 構成.....	10
HPE Primera Remote Copy の関連ドキュメント.....	11
Web サイト	12
サポートと他のリソース	13
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	13
アップデートへのアクセス.....	13
カスタマーセルフリペア (CSR)	14
リモートサポート (HPE 通報サービス)	14
保証情報.....	14
規定に関する情報.....	14
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	15

Remote Copy 構成のディザスタリカバリ

Remote Copy グループの手動フェイルオーバー

フェイルオーバーはバックアップシステム上のセカンダリ Remote Copy グループをプライマリに変更します。フェイルオーバーは、ホストに対し、ターゲットシステム上の Remote Copy グループ内のボリュームへの読み取り/書き込みアクセスを提供します。

ソースシステムでメンテナンスを実行しているときにソースシステムが使用できなくなった場合、フェイルオーバーを実行します。

手順

1. Remote Copy グループを停止します。

注記: 自動同期ポリシーが有効になっていて、複製モードが同期の場合、グループを停止する必要はありません。

2. HPE 3PAR SSMC のメインメニューで、**データ保護**の下の **Remote Copy グループ**を選択します。
3. リストペインで、Remote Copy グループを選択してから、**アクション > フェイルオーバー**を選択します。
4. **フェイルオーバー**をクリックします。
5. フェイルオーバーを確認するには、**影響の理解**に関するチェックボックスを選択してから、**フェイルオーバーします**をクリックします。

詳しくは

[Remote Copy フェイルオーバー操作\(8 ページ\)](#)

[Remote Copy グループポリシー\(9 ページ\)](#)

Remote Copy グループのフェイルオーバーの切り戻し

フェイルオーバー切り戻し操作は、手動フェイルオーバー操作を逆にし、システムを通常状態に戻します。

注記: 自動同期ポリシーが有効になっている場合、フェイルオーバーを切り戻すことはできません。代わりに、もう一度フェイルオーバーを実行して元の構成に戻します。

前提条件

- ・ フェイルオーバー操作が完了しています。
- ・ 自動同期ポリシーは無効になっています。

手順

1. HPE 3PAR SSMC のメインメニューで、**データ保護**の下の **Remote Copy グループ**を選択します。
2. リストペインで、Remote Copy グループを選択してから、**アクション > フェイルオーバーの切り戻し**を選択します。

3. フェイルオーバーの切り戻しをクリックします。
4. 切り戻しアクションを確認するには、影響の理解に関するチェックボックスを選択してから、**フェイルオーバーを切り戻します**をクリックします。

詳しくは

[Remote Copy のフェイルオーバー切り戻し操作\(8 ページ\)](#)
[Remote Copy グループポリシー\(9 ページ\)](#)

Remote Copy グループのリカバリ

リカバリは、バックアップシステム上のプライマリ Remote Copy グループをセカンダリグループに変更して、すべてのグループを起動し、同期します。

自動同期ポリシーが無効になっていて、Remote Copy グループがフェイルオーバーした場合、グループを手動リカバリします。Peer Persistence 構成の場合は、**Peer Persistence フェイルオーバーのリカバリ**を参照してください。

前提条件

DR 状態はフェイルオーバーです。

手順

1. HPE 3PAR SSMC のメインメニューで、**データ保護**の下の **Remote Copy グループ**を選択します。
2. リストペインで、Remote Copy グループを選択してから、**アクション > 回復**を選択します。
3. デフォルトでは、Remote Copy グループは回復操作後に開始されます。Remote Copy グループが自動的に開始しないようにするには、**ロールの逆転の完了後はグループを開始しないでください**を選択します。
4. **回復**をクリックします。
5. リカバリを確認するには、影響の理解に関するチェックボックスを選択してから、**回復します**をクリックします。

詳しくは

[Remote Copy の回復操作\(8 ページ\)](#)
[Remote Copy グループポリシー\(9 ページ\)](#)

Remote Copy グループにおけるデータフローの通常の方角の復元

Remote Copy グループが手動でリカバリされている場合、グループを手動で復元する必要があります。

前提条件

DR 状態はフェイルオーバーまたは回復です。

手順

1. HPE 3PAR SSMC のメインメニューで、**データ保護**の下の **Remote Copy グループ**を選択します。
2. リストペインで、Remote Copy グループを選択してから、**アクション > 復元(フェイルバック)**を選択します。

3. **復元(フェイルバック)**をクリックします。
4. 復元操作を確認するには、影響の理解に関するチェックボックスを選択してから、**復元します**をクリックします。

詳しくは

[Remote Copy の復元操作\(8 ページ\)](#)

Peer Persistence のスイッチオーバーの実行

スイッチオーバーは、ホスト I/O に影響を与えることなく、Peer Persistence グループの役割を変更し、複製の方向を逆にします。ソースボリュームがターゲットになり、ターゲットボリュームがソースになり、それらの間のパスが元の構成から逆になります。また、スイッチオーバーにより、両方のシステムに接続されたホストから LUN が書き込み可能になります。

Peer Persistence 構成でサービスまたはメンテナンスをソースシステムで実行する必要がある場合、スイッチオーバーを実行します。

前提条件

- ・ ソースとターゲット Peer Persistence グループは同期モードです。
- ・ ソースとターゲット Peer Persistence グループは同期されています。
- ・ Peer Persistence グループ内のすべてのボリュームは同じ WWN です。
- ・ すべてのボリュームは、両方のストレージシステムから同じホストにエクスポートされています。
- ・ **DR 状態は正常**です。

手順

1. HPE 3PAR SSMC のメインメニューで、**データ保護**の下の **Remote Copy グループ**を選択します。
2. リストペインで、Peer Persistence グループを選択してから、**アクション > スwitchオーバー**を選択します。
3. **スイッチオーバー**をクリックします。
4. スwitchオーバー操作を確認するには、影響の理解に関するチェックボックスを選択してから、**スイッチオーバーします**をクリックします。

詳しくは

[Peer Persistence を使用した 1-to-1 Remote Copy における無停止フェイルオーバー \(Geocluster 環境\) \(10 ページ\)](#)

[VMware vSphere Metro Storage Cluster 構成\(10 ページ\)](#)

Peer Persistence フェイルオーバーのリカバリ

自動同期ポリシーが無効になっていて、Peer Persistence Remote Copy グループがフェイルオーバーした場合、CLI コマンドを使用してグループを手動リカバリする必要があります。詳しくは、HPE Primera OS 4.0 Command Line Interface reference guide を参照してください。

この手順では、SystemA は元の構成のプライマリまたはソースストレージシステムを示します。SystemB はセカンダリまたはターゲットストレージシステムを示します。フェイルオーバー時、SystemA は SystemB にフェイルオーバーし、SystemB がプライマリ-Rev ストレージシステムになります。SystemB から SystemA に複製されます。

前提条件

- ・ DR 状態はフェイルオーバーです。
- ・ プライマリまたはソースシステムがオンラインに戻っています。

手順

1. セカンダリ（フェイルオーバー）ストレージシステムにログインします。
2. ターゲットシステムを復旧します。

```
cli% setrcopygroup recover -t <sync target>
```

<sync target>は、プライマリシステム上のターゲットの名前（SystemA）です。

SystemA 上の Remote Copy グループがプライマリからセカンダリ-Revに変更されます。

3. Remote Copy グループの役割を逆にします。

```
cli% setrcopygroup reverse -natural -t <sync target>
```

SystemA 上の Remote Copy グループがセカンダリ-Rev からセカンダリに変更されます。SystemB 上の Remote Copy グループがプライマリ-Rev からプライマリに変更されます。

4. ボリュームが同期するまで待ちます。
5. グループを元の構成に戻します。

```
cli% setrcopygroup switchover -t <sync target>
```

SystemA 上の Remote Copy グループがプライマリに変更されます。SystemB 上の Remote Copy グループがセカンダリに変更されます。複製の方向が変更され、SystemA から SystemB に複製されず。

参照

Remote Copy フェイルオーバー操作

フェイルオーバー操作の応答は、自動同期ポリシー設定に基づいて異なります。

自動同期ポリシーが無効のフェイルオーバー操作：

- ・ Remote Copy グループのターゲットロールがセカンダリから**プライマリ-Rev**になります。
- ・ **DR 状態がフェイルオーバー**になります。

自動同期ポリシーが有効のフェイルオーバー操作：

- ・ Remote Copy グループのターゲットロールがセカンダリから**プライマリ**になります。
- ・ **DR 状態は正常**のままです。

Remote Copy のフェイルオーバー切り戻し操作

フェイルオーバー切り戻し操作：

- ・ ソースシステム上の Remote Copy グループを**プライマリ**に戻し、ターゲットシステムを**セカンダリ**に戻します。
- ・ ソースシステム上の Remote Copy グループのボリュームへの読み取り/書き込みアクセスをホストに提供します。ターゲットシステムに接続されているホストは読み取り専用です。
- ・ **DR 状態がフェイルオーバーから正常**になります。

Remote Copy の回復操作

回復操作：

- ・ 複製の方向を逆にします。
- ・ Remote Copy グループについて、ターゲットからソースストレージシステムに変更を同期します。
- ・ Remote Copy グループのソースロールが**セカンダリ-Rev**になります。
- ・ ソースシステムに接続されているホストが Remote Copy グループ内の仮想ボリュームに関連する LUN に書き込みアクセスできないようにします。

Remote Copy の復元操作

復元操作：

- ・ 回復操作が完了した後に、Remote Copy グループの複製がフェイルオーバー前の状態に復元されます。
- ・ Remote Copy グループの**ターゲットロールがプライマリ-Rev からセカンダリ**になります。**ソースロールがプライマリ**になります。
- ・ ソースシステム上のボリュームへの読み取り/書き込みアクセスをホストに提供します。ターゲットシステムに接続されているホストは読み取り専用です。

Remote Copy グループポリシー

自動フェイルオーバー

自動フェイルオーバーポリシーは、HPE Quorum Witness と併用することで、Remote Copy グループ上の自動フェイルオーバーを有効にします。

自動フェイルオーバーポリシーは、デフォルトでは無効になっています。無効にすると、災害が発生しても Remote Copy グループはフェイルオーバーせず、手動でリカバリする必要があります。

ATF Peer Persistence 構成ではこのポリシーが必要です。

自動リカバリ

Remote Copy リンクペアがダウンしていて、自動リカバリポリシーが有効になっている場合、リンクが再確立された後、Remote Copy グループは自動的に再起動されます。

自動リカバリポリシーは、デフォルトでは無効になっています。無効になっている場合は、リンクが再確立された後、Remote Copy グループを手動で再起動する必要があります。

自動同期

フェイルオーバーが発生し、自動同期ポリシーが有効になっている場合、Remote Copy グループのすべての仮想ボリュームが自動的にリカバリおよび同期されます。システムのリカバリが完了して Remote Copy リンクが再確立されると、同期が実行されます。

自動同期が有効になっている場合に手動フェイルオーバーを実行すると、自動スイッチオーバーが実行されます。ソースからターゲットへの自動スイッチオーバーによるフェイルオーバー後でも、ディザスタリカバリ状態は正常です。

注記: 自動同期が有効になっている場合、同期 Remote Copy グループが開始してオンラインになっているときに、手動フェイルオーバーを実行できます。

自動同期ポリシーは、デフォルトでは無効になっています。無効にすると、システムのリカバリが完了した後、およびリンクが再確立された後で、Remote Copy グループを手動で同期する必要があります。

ミラー

ミラーポリシーは、ソースおよびターゲットストレージシステムで同時に Remote Copy グループにアクションと設定を自動的に適用します。たとえば、Remote Copy グループを開始または停止した場合、グループはソースとターゲットシステムで同時に開始または停止します。ターゲットストレージシステムが HPE 3PAR SSMC から切断されていても Remote Copy グループを開始または停止できません。

Remote Copy 構成を作成するときは、ミラーポリシーオプションは自動的に有効になっています。

期間超過アラート

指定した同期期間内に定期同期が完了しない場合、期間超過アラートポリシーによってアラートが生成されます。

期間超過アラートポリシーは、定期 Remote Copy グループではデフォルトで有効になっています。このポリシーは、定期モードにのみ適用されます。

パス管理

パス管理ポリシーは、セカンダリ Remote Copy グループへのパスがスタンバイに設定されているときに、ホストからプライマリ Remote Copy への ALUA パスがアクティブになるよう設定します。

パス管理が有効になっていない場合、ALUA の動作は Remote Copy グループ内のボリュームに対して無効です。ボリュームのターゲットポートグループ状態はアクティブです（デフォルト）。

Peer Persistence 構成ではこのポリシーが必要です。

Peer Persistence を使用した 1-to-1 Remote Copy における無停止フェイルオーバー（Geocluster 環境）

Peer Persistence を使用して、地理的に分散しているデータセンター間でストレージシステムを連携させることができます。ストレージのこのサイト間連携により、データセンターをより効率的に使用できます。ビジネスニーズに合わせて、アプリケーションを 1 つのサイトから別のサイトへ、アプリケーションのダウンタイムなしで移動することができます。

無停止フェイルオーバーとは、次のような 2 つのサイト間の高可用性構成です。

- ・ ホストは、両方のサイトのストレージシステムにアクセスできる Geocluster 構成でセットアップされています。
- ・ プライマリストレージシステムで作成されたストレージボリュームは、同期 Remote Copy を使用してセカンダリストレージシステムに複製されます。
- ・ 同期 Remote Copy によって、ボリュームは常に同期された状態です。

無停止のフェイルオーバー中、障害があった（プライマリ）ストレージアレイへのホストトラフィックは、ホストに大きな影響を与えることなく、セカンダリストレージアレイにリダイレクトされます。

VMware vSphere Metro Storage Cluster 構成

VMware vSphere Metro Storage Cluster は、Geocluster、ストレッチクラスター、または Metro Cluster 構成の例です。ホストクラスター構成では、VM やクラスターリソースのアフィニティルールおよびフェイルオーバールールを使用して、ホストとストレージシステムサイト間にわたる高可用性レベルを実現します。

Hewlett Packard Enterprise は、vMSC 均等構成をサポートします。均等ホストアクセスは、各ホストが両方のサイトで利用できるストレージリソースにアクセスできる VMware 伸長型クラスター構成です。これは、1 つのサイトでのストレージ障害に対する保護を優先しています。均等構成だけが、Peer Persistence で動作し、ホストの中断なしで透過的なフェイルオーバーを提供します。

均等ホストアクセスは次の機能を提供します。

- ・ ストレージ障害に対する保護
- ・ アクティブ負荷分散

均等ホストアクセス構成は、Peer Persistence のフェイルオーバーまたはスイッチオーバーのホスト透過的な側面を達成するための要件です。

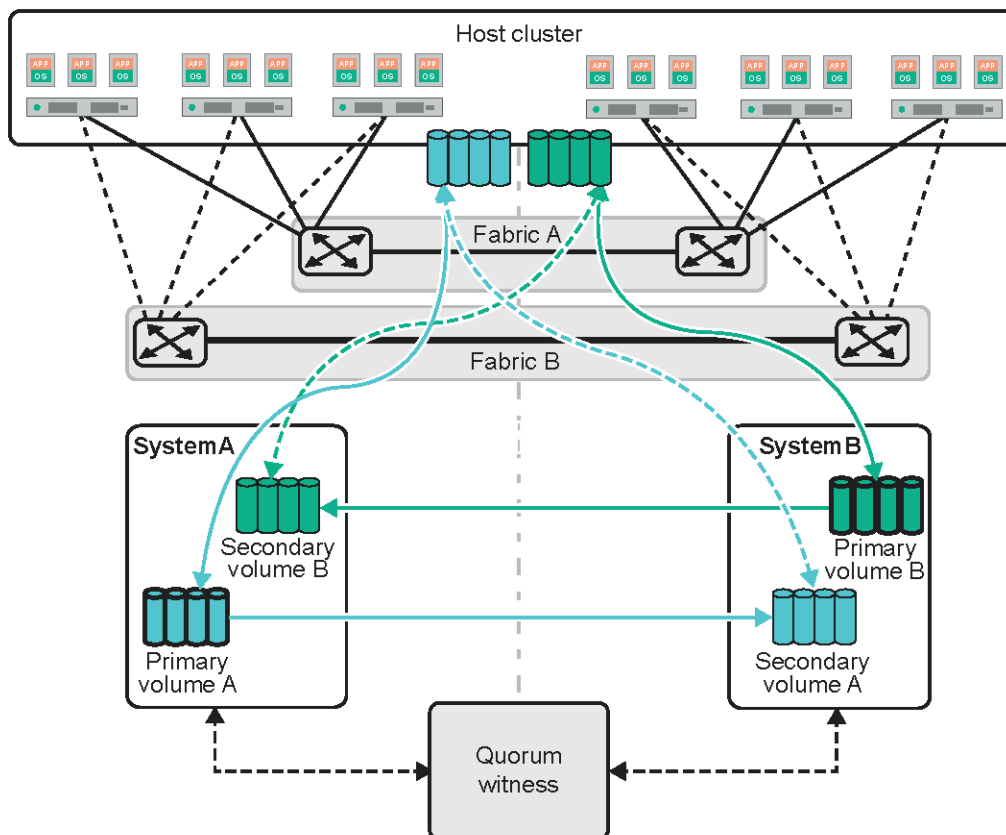


図 1: VMware vMSC 認定 - 均等ホストアクセス

HPE Primera Remote Copy の関連ドキュメント

次のドキュメントは、Remote Copy ソリューションの追加情報を提供します。これらのドキュメントは Web サイト <https://www.hpe.com/info/Primera600-docs> から入手できます。

- ・ HPE Primera OS 4.0: Remote Copy によるディザスタリカバリの簡易ガイド
- ・ HPE Primera OS 4.0: Remote Copy によるディザスタリカバリの構成
- ・ HPE Primera OS 4.0: Remote Copy によるディザスタリカバリソリューションの管理
- ・ HPE Primera OS 4.0: Troubleshooting disaster recovery with Remote Copy
- ・ HPE Primera OS 4.0: Remote Copy によるディザスタリカバリ
- ・ HPE Primera および HPE 3PAR 用の HPE Quorum Witness のインストールとアップデート
- ・ HPE 3PAR StoreServ Management Console 3.6 ユーザーガイド

Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<http://www.hpe.com/info/EIL>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス

<http://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<http://www.hpe.com/storage/whitepapers>

その他の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/info/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページに移動します。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare>

HPE データセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証に関する情報を表示するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。